

リンパ管炎に対する柴苓湯の臨床効果

獨協医科大学埼玉医療センター 総合診療科 (埼玉県) 齋藤 登

浮腫のなかでも下腿などのリンパ浮腫に続発したリンパ管炎の診療においては、単なる抗菌薬投与で改善しないケースが散見される。骨盤内の悪性腫瘍術後におけるリンパ管炎に対し、柴苓湯によって炎症改善や再燃防止につながったことが示唆される症例を経験したので報告する。

Keywords 柴苓湯、リンパ管炎、浮腫

はじめに

日常臨床で浮腫の成因鑑別に基づく対応を要する場面があり、下肢腫脹が骨盤内臓器の悪性腫瘍術後に生じ、長い経過をたどっている症例に遭遇することも多い。なかでもリンパ浮腫が背景にあり、リンパ管炎を生じる事例においては単なる抗菌薬投与では改善に乏しいこともある。局所所見だけでなく全身的な診察、血液検査や下肢エコーなどによる病態の鑑別診断が重要となるが、リンパ管炎に対し、柴苓湯を用いた加療が効果的であった3症例を提示し、若干の考察を加え報告する。

症例1 74歳 女性

【主 訴】 両下肢腫脹、発熱

【既往歴】 子宮頸がん(子宮全摘+放射線照射) 45歳

【現病歴】 子宮術後2年ぐらいから大腿部主体の腫脹を生じていた。その後の下腿にも出現し、1回/年程度の炎症を繰り返していたが、前年から頻度が多くなり左下腿腫脹が強く座ることが難しい状態となったため紹介受診となる。

【現 症】 148cm、51kg、血圧 135/63mmHg、体温 36.5℃。WBC 10400/ μ L、CRP 0.23mg/dL、AST 20U/L、ALT 13 U/L。当科初診時は紹介医で抗菌薬の投与後であり、左大腿に発赤を認めるも右大腿を含め皮下硬化所見等は乏しく、両下腿に軽度の圧痕性浮腫を認めた。

【経 過】 これまでリンパマッサージや夜に弾性ストッキングを装用。当科外来で体表エコー施行、静脈血栓は認めないが大腿部などに皮下結合組織の間隙開大(いわゆる敷石状所見)を認め、MRIでも左小殿筋から大腿二頭筋付近の間質浮腫像を呈していた。下肢リンパ管炎を最も想起し、肝機能変動を認めないことから、クラシエ柴苓湯エキス細粒 8.1g/日(分2)で処方開始した。その後は徐々に発

赤も消退し、下腿周囲径は初診時より最大で約2cm減少した部位を認めるまでに至り、1年後のMRIフォローで間質浮腫像が軽減しており、浮腫の改善を画像的にも確認した(図1、2)。局所のみでなく血液検査での炎症反応上昇を認めることなく経過し、2年経過後は五苓散に切り替え継続中である。

図1 下肢MRIにて認める皮下間質浮腫所見(受診時)

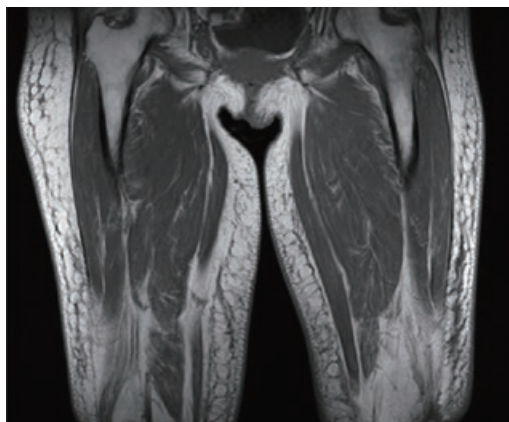
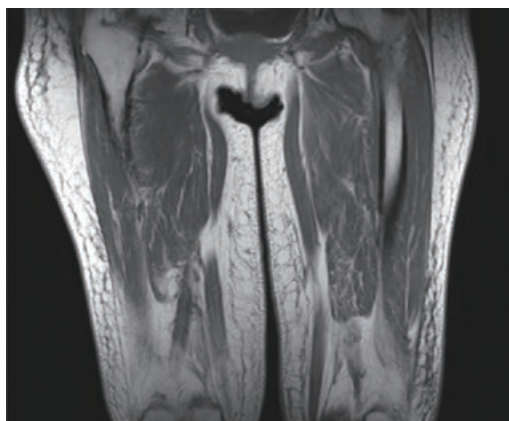


図2 下肢MRIにおける間質浮腫軽減所見(1年後)



症例2 70歳 女性

【主 訴】 両下腿腫脹、発熱

【既往歴】 関節リウマチ 55歳、肺がん(右下葉切除) 64歳、子宮体がん(子宮全摘+付属器切除) 66歳

【現病歴】 子宮術後から両下肢の腫脹を生じ、婦人科でリンパ浮腫の可能性を指摘、弾性ストッキングを着用していた。約1ヵ月前に38℃台の発熱を認め、関節リウマチにおけるかかりつけ医にて抗菌薬投与などを受けたが、症状と炎症反応変動の関連が説明しがたく紹介受診となる。

【現 症】 142cm、56kg、血圧 147/78mmHg、体温 36.6℃。WBC 7000/ μ L、CRP 6.91mg/dL、赤血球沈降速度 99mm/hr、AST 19U/L、ALT 16 U/L。大腿部に熱感を認め、右側優位の下腿腫脹と圧痕性浮腫を認め、ホーマンズ徴候は明らかでなかった。

【経 過】 以前に下肢静脈血栓症を生じかけたことがあるとの申し出から、下肢静脈エコーを行い血栓は認めないが下肢に広がる浮腫層は敷石状を呈していた。自己免疫系の背景があるため血管炎マーカー含め他の要因を鑑別、除外し、下肢リンパ管炎と診断した。クラシエ柴苓湯エキス細粒 8.1g/日(分2)で処方開始し、大腿部などの熱感は軽減傾向となったが、免疫抑制薬を内服していることもありCRPなどの炎症反応改善には2ヵ月ほど要した。3ヵ月ほどの柴苓湯内服にて治癒したため経過観察のみとなっている。

症例3 83歳 男性

【主 訴】 右下肢腫脹および発赤

【既往歴】 膀胱がん(膀胱全摘+人工膀胱造設) 61歳、再発にて放射線照射術 82歳

【現病歴】 術後再発に対する放射線治療後に右下肢(大腿から足背まで)の腫脹が出現。近医2ヵ所を受診後、前医を経て当科へ紹介受診となる。

【現 症】 161cm、65kg、血圧 130/75mmHg、体温 36.3℃。WBC 4400/ μ L、CRP 0.79mg/dL、赤血球沈降速度 51mm/hr、AST 19U/L、ALT 14 U/L。前医で五苓散やフロセミドを投与されていたが、右大腿に皮下硬化所見あり、右下腿には腫脹、発赤や熱感を認めた。

【経 過】 まず下肢静脈エコーを行い血栓は認めず、右大腿から下腿に広がる浮腫が著明で浮腫層は敷石状を呈し、下肢MRIでも右下肢にはリンパ管うっ滞による結合織の開大を認めた。胸腹～骨盤部CTでは再発を含めた腫瘍性病変などは認めなかった。右下肢リンパ管炎を考え、クラシエ柴苓湯エキス細粒 8.1g/日(分2)で処方開始、2ヵ月経過した段階で炎症が改善したことから形成外科により右下肢リンパ管静脈吻合術施行。術後も形成外科より柴苓湯が継続中である。

考 察

日常臨床では浮腫の成因鑑別を要する事例が多く(表)、特に術後に生じる下肢浮腫ではリンパ性浮腫を呈していることも珍しくない。静脈性浮腫との鑑別において私どもは下肢静脈エコー施行時に静脈血栓を認めないこと、皮下結合組織浮腫層の敷石状所見を認めることをリンパ性浮腫診断の根拠としている(図3)。リンパ節郭清を伴う悪性腫瘍術後では術後の長い時間経過において、リンパ性浮腫に加えて発赤、腫脹、疼痛などの炎症徴候が加わったリンパ管炎を生じることがある。リンパ性浮腫に皮膚からの細菌感染などが加わったものがリンパ管炎やリンパ管炎に

表 浮腫の要因鑑別につながるポイント

末梢性浮腫	炎症性浮腫	蜂窩織炎、熱傷、刺咬症など：局所の発赤・熱感・疼痛あり
	静脈性浮腫	静脈血栓症、血栓性静脈炎、下大静脈症候群など：静脈のうっ滞
	リンパ性浮腫	悪性腫瘍術後(リンパ節郭清後)、リンパ管炎、フィラリア症など
	Quincke浮腫	血管神経性～アレルギー性：顔面・四肢など
全身性浮腫	心原性浮腫	うっ血性心不全による：頸静脈怒張、呼吸困難など伴うことあり
	腎性浮腫	腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全など
	肝性浮腫	肝硬変、門脈圧亢進症など：手掌紅斑・腹水伴うことも
	栄養性浮腫	吸収不良症候群、蛋白漏出性胃腸症など栄養障害による低Alb血症伴うこと多い
	内分泌性浮腫	甲状腺機能低下症、Cushing症候群、周期性浮腫(月経)
	薬剤性浮腫	NSAIDs、Ca拮抗薬、ACE阻害薬、ホルモン薬、アルドステロン様作用薬など
特発性浮腫	利尿剤長期服用後の中止例、ダイエット、下剤乱用、習慣性嘔吐など	

図3 下肢エコーにて認める皮下結合組織浮腫層の
敷石状所見



続発した蜂窩織炎として捉えられる。

柴苓湯は小柴胡湯と五苓散の合方であり、これまで消化器疾患で感染性胃腸炎¹⁾や潰瘍性大腸炎²⁾などに対して、腎疾患で慢性腎炎、ネフローゼ症候群、IgA腎症などへ³⁾、耳鼻咽喉領域疾患で滲出性中耳炎⁴⁾やBell麻痺などへ⁵⁾、婦人領域疾患では妊娠高血圧症候群(以前の妊娠中毒症)⁶⁾や反復性流産⁷⁾などへ、皮膚疾患で天疱瘡⁸⁾、乾癬、帯状疱疹後神経痛⁹⁾などへ、眼疾患で黄斑浮腫や網膜静脈分枝閉塞症¹⁰⁾などへ、自己免疫疾患で関節リウマチ¹¹⁾などへの

処方における効果が報告されている。いずれも抗炎症作用を持つ小柴胡湯と、アクアポリンなどへ作用し浮腫改善作用を持つ五苓散の良さが生かされて治療に役立っているものと思われ、ステロイド様作用が身体全体をも整える効能を発揮していると推測される。

リンパ管炎の発症事例では体調不良や身体負荷につながるエピソード(浮腫改善のため過度な水泳を毎日プールで、お稽古の発表会に備えて数ヶ月前から負荷をかけた練習など)を持つことが多いので、問診上でしっかり聞き出し、内服加療のみでなくマイナス因子となるものを減らす指導が必要となる。

柴苓湯処方開始時には炎症などの影響による肝機能変動が顕著でないかを血液検査にて確認し、肝機能障害の潜在が明らかな場合は五苓散のみで対応することがある。外来通院レベルでの対処が難しいリンパ管炎～蜂窩織炎の場合は、入院加療による抗菌薬持続点滴のマネジメントを行う必要があるが、当院にて2016年総合診療科開設以降の経験では柴苓湯投与により外来加療で炎症所見や浮腫の改善を認めているケースが多数を占める。また、経過中の間質性肺炎などに留意しているが有意な副作用象も認めていない。

【参考文献】

- 1) 遠藤 剛: 成人の感染性胃腸炎に対する柴苓湯の効果－柴苓湯投与群と柴苓湯非投与群の比較検討－. 医学と薬学 68: 683-687, 2012
- 2) 小畑伸一郎 ほか: 潰瘍性大腸炎に対する漢方製剤(柴苓湯)の併用. 医療 45: 174-176, 1991
- 3) 小野孝彦: 腎臓内科領域の漢方治療. 日東医誌 64: 10-15, 2013
- 4) 田中久夫: 滲出性中耳炎に対する柴苓湯の有効性. Prog. Med. 16: 907-909, 1996
- 5) 岡村由美子: 顔面神経麻痺治療過程における柴苓湯の効果. 耳鼻咽喉科臨床 補冊 1998: 49-51, 1998
- 6) 井浦俊彦 ほか: 妊娠浮腫に対する柴苓湯の臨床的有用性. 臨床婦人科産科 48: 355-358, 1994
- 7) 苧原 稔 ほか: 着床障害からみた不妊症、不育症の内分泌環境. 産婦人科治療 76: 220-223, 1998
- 8) 大草康弘 ほか: 柴苓湯が奏効した尋常性天疱瘡の1例. 日東医誌 43: 119-124, 1993
- 9) 吉井信夫 ほか: 帯状疱疹後神経痛に対する柴苓湯の効果. 痛みと漢方 3: 41-44, 1993
- 10) 岩下憲四郎 ほか: 網膜静脈分枝閉塞症の黄斑浮腫に対する柴苓湯の効果. 臨床眼科 54: 1247-1251, 2000
- 11) 鈴木 定: 慢性関節リウマチに対する柴苓湯の治療経験 寛解導入・免疫調節剤の効果についての試み. 漢方診療 11: 25-27, 1992